

東山花だより

(題字は元同盟委員長 故 北村徳太郎氏)

2011年



発行人 大和田 浩二 発行所 YMC&A 東山荘

四二〇二四 静岡県御殿場市東山一〇五二 電話 〇五五〇八三一三三

FAX 〇五五〇八三一三三



「11月下旬の東山荘」

写真：白鳥 裕之

～さるのつばやきへ～

夕陽の風

5

東山荘所長
大和田 浩二

東山荘の秋は、いつの間にか森の木々の間に潜んでいた冷えて乾いた澄んだ空気が、その手を大きく広げながらのようあたりに包んで始まります。夏の間にはなかなかその顔を見せながらなかつた富士山も、朝晩以外にも端正な顔と姿をくつきりと夕陽の丘や紫雲山から眺めさせてくれます。荘内にこだましていた子どもたちの声やさわめきも、いつしか遠いかなたに消えたかのような秋の静けさも訪れてきています。木々は色づき始め、やがて真っ赤や黄金色の木の葉のじゅうたんが、芝生の上に敷き詰められる日を迎えるのです。

まるで火の消えたような3月から5月だった今年の東山荘にも、7月、8月を中心として多くの方々がお訪れくださいました。おいでいただいたことに心からお礼申し上げます。少しでもゆつくりとした心の休養と、これからと明日への元気を得て帰っていただけただけなら、この上も無い幸いと思っております。

この夏のいくつかのキャンプの中には、福島や栃木、またその他の被災地の方面から来ていただいたグループやご家族、子どもたちが見られました。

「ここにはおつかない変気ないの、おなかいっぱい吸っていいんだね。」「何ヶ月振りかで、はだして芝生や土の上を走り回り、笑い転げる子どもたちを見て、涙が出ました。」

「自然にいやされ、元気をもらった人々も、また、あるいははきびしい現実の生活に戻って行かれます。その中でも前を見ながら暮らして行くことの大変さを、私たちはどのように共感できるのでしょうか。」

この秋以降も、高齢者の方々や、子どもたち、家族での被災地からの受け入れプログラムは続いている予定です。この方々と共に、これからも歩き続けることのできる東山荘でありますように。

夏季特別プログラム報告

東山荘では国内外の支援を頂き震災ストレスケアのプログラムを実施しました。

三菱商事株式会社には、全国のY.M.C.A.が行う震災ストレスケアプログラムを全面的にバックアップ頂ける事となり、三菱商事Y.M.C.A.フレンドシップキャンプの一環として、この夏のキャンプが実施されました。夏のいくつかを紹介させていただきます。

のびのびキャンプ

① 7 / 22 ~ 29 : 103名
② 8 / 19 ~ 26 : 68名

5月初めに福島市の主婦から頂いた、夏休み中だけでも子供や家族を思いきり遊ばせたいかというお趣意を聞き取りながら開催いたしました。最初は50名を予定していましたが、150名を超える応募があり、急遽規模を拡大して2回開催となりました。現地説明会に赴いたスタッフは、福島の中マヤクをして壁下校し、外では一切遊ばない状況に事態の深刻さを感じ知らされた。7月28日のゆったりとしたプログラムで、津中ふじさん球や野外コンサート等を実施しながら、ブルウインドやアクトレットに行くなど各自が自由に楽しめるよう運営しました。



〜〜〜と賑やかに食卓を囲みます。写真真上



みんなで一掃の山頂(写真上)



毛も生えよ上り山頂。写真真上



守備の練習中、上手に音が聞けるかな？(写真上)



こども音楽会。自作の楽器で演奏しました。(写真真上)



暑さでお困り、タオルで涼ませてもらっています。(写真真上)



リーダーが引率でもらうおしりすべり。途中で富士山を満喫しました。(写真真上)

砂の斜面を豪快に駆け下ります。(写真真上)

シャボン玉大会で大盛り上がり！これにたいく特別組合のシャボン玉部で遊びました。(写真真上)



公園裏で笑いあふる？(写真真上)



御殿場市内の小学校からお借りした「カブラ」を大人の背よりも高く積み上げて。(写真真上)

プロジェクト結アカデミーキャンプ

① 8 / 6 ~ 12 : 161名
② 8 / 21 ~ 26 : 211名

プロジェクト結が中心となり、キャンプを開催しました。慶應義塾大学、駒澤大学の先生や学生、公益団体、NPO、アスリート、企業としてY.M.C.A.が連携して様々なアクティビティを企画展開するキャンプです。日頃なかなか目にすることのない知的好奇心をくすぐる酒城の技術や知識に触れることが出来ました。「世界初のデジタル地球儀に触れよう」「ロボットを使ってインテリネットの他、「ミニバイク&テコンド体験」など身体を使うプログラムも体験。いつもの東山荘では味わえないような企画も多くありました。

子ども達も、ボランティアリーダーのサポートを得ながら、好奇心で目をきらきらさせて夏の東山荘の生活を楽しみました。

Y.M.C.A.の力だけでは行えない、応援のあるキャンプを実施することが出来ました。慣れのつなぐを大切にしながら、子ども達を支援するキャンプ、プログラムも大切にしていきたいと考えています。

※プロジェクト結については左記ホームページを参照してください。
<http://project.ycu.org/>



東山荘に成からやっつくりあてさんぽ！



みんな笑顔！



遊びながら学びます



BRQのスイカは格別！！(写真真上)



テランドー教室(写真真上)

栃木から様々な階級がいて、つ人とその保護者・介助者で構成された50名のおやこが集まり、富士山麓でのひとときを分かち合いました。

小雨のばらつくキャンブファイヤーでは、各自が身体動かせるところを目標一杯に動かして踊ったり歌ったり。

翌日は富士山須走口五合目で、小富士周遊の遊びコースと古御嶽神社復元の遊びガイドウォークの二手に分かれて夏の終わりのふじさんぽを満喫しました。笑顔の絶えない暖かい交流が生まれました。



森林探検をしながらふじさんぽ！(1)



楽しい12日間を分かち合った年賀写真。(下真上:下)



小富士山頂上で、おやこ小隊のみんなが自然観察から大川釣りに参加し、文化体験コースを満喫のふじさんぽも楽しめました。(2)



焼肉はやはりおやこたちから人気です(1)



★秋冬のフレンドシップキャンプ予定

- ◎おやこリフレッシュキャンプ◎
 - ・11月11日(金)～13日(日)
 - ・1月6日(金)～8日(日)※予定
- ◎年末年始家族パーティー
 - 12月30日(金)～1月4日(水)
 - ※開催期間中に10組をご招待します。

※三菱商機株式会社のご協力により、対象者は上記各プログラム参加費が無料となります。

各プログラムのお問い合わせは…

YMCA 東山荘
〒412-0024 静岡県御殿場市東山1052
TEL0550-83-1133/Fax0550-83-1138
HP:<http://www.ymcajapan.org/tozanso/>

富士山ぐらぐらキャンブ
ゴールドマン・サブウエイ認定特殊社会の全面支援の下、空路加国際病院形成外科と協働により、小さな頃から成体や入院を繰り返して、キャンブなどの野外活動経験のない子供達のために企画・実施しました。

キャンブ初日、緊張した面持ちで空路加国際病院に参加者が集まってきました。キャンブの子供と大人が別々に生活をするスタイルに不安を感じる子ども、大人も多かったようです。その不安を吹き飛ばすのがYMCAキャンブリーダーの仕事。笑顔で寄り添いながらグループの雰囲気を作り上げていき、東山荘に着く頃にはみんなニコニコになっていました。キャンブ中は芝生のプール遊び、ふじさんぽ、花火大会、キャンブファイヤーなど盛りだくさん。特に大人グループが仲良くなりすぎて、夜中に鼻を見に行ったりしてこなかったりと、今までにない体験をたくさんして頂いたと思います。

キャンブには人と人をつなげ、心を豊かにさせる効果があります。さまざまな理由で野外活動体験の機会のない子どもたちもまた楽しんだそうです。そのような子ども達に一人でも多く笑ってもらえるような東山荘を目指します。



主催プログラム通信

子どもチャリ登山キャンプ

8 / 15 / 19

とびつきのチャリ登山プログラムを敢行しました。東山荘から富士山頂を往復する「子どもチャリ登山キャンプ」は自転車でも山荘から須走口ふじあざまラインを漕ぎ上がり、急勾配は徒歩の旅。3日からは「子ども富士登山キャンプ」のメンバーも合流して馬返しから富士登山をしました。



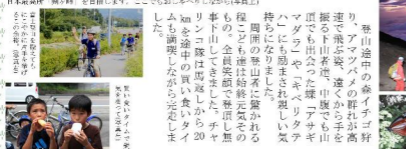
登山途中の森イチョゴ狩り、アマツバメの群れが高速で飛ぶ姿、遠くから手を振るト山者達、中腹でも山頂でも出会った蝶「アサギマダラ」や「キベリタテハ」にも励まされ親しい気持ちになりました。

子どもチャリ登山キャンプ

本七日目見晴峠を拠点とした山中2泊のプログラムで、速くの雷雲が抽灯のようになり、流星がたくさんの見られた夜も、息を呑むようなご来光も2回ずつ満喫しました。余裕のスケジュールでおはちめぐりもゆつくり楽しみました。



日本最高峰「剣ヶ峰」を目指します。ここでもおしゃべりしながら(写真上)



登山途中の森イチョゴ狩り、アマツバメの群れが高速で飛ぶ姿、遠くから手を振るト山者達、中腹でも山頂でも出会った蝶「アサギマダラ」や「キベリタテハ」にも励まされ親しい気持ちになりました。

周囲の登山者に驚かされる程ことも運は始終元気そのもの。全員笑顔で登頂し無事下山してきました。チャリロード隊は馬返しから20kmを途中の買い食いタイムも満喫しながら完走しました。

